

Weekly Report



事務局：460-0003

名古屋市中区錦1-13-19

名錦ビル7F

TEL: 052-211-3803

FAX: 052-211-2623

MAIL: 2760_nagoya@mizuho-rc.jp

URL: http://www.mizuho-rc.jp/

創立：1980年(昭和55年)1月10日

会長：堀 慎治

幹事：田中 宏

クラブ広報委員長：榎田 篤弘

例会日：毎週木曜日PM12:30～

会場：ビルトシ名古屋

2021-22年度

名古屋瑞穂ロータリークラブ

会長のテーマ

「瑞穂ロータリークラブを理解し、
瑞穂ロータリークラブライフを楽しもう」

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021-22年度

国際ロータリーのテーマ

奉仕しよう

みんなの人生を豊かにするために
(SERVE TO CHANGE LIVES)

第1973回例会

～水と衛生月間～

クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2021年8月5日(木) 雨 第5回

司会：岡部光邦会場委員

斉唱：「君が代」「奉仕の理想」

ゲスト：株式会社TITAN 代表取締役 後藤啓佑さん

米山奨学生 周 軒さん

会長挨拶

堀 慎治 会長

連日盛況な東京2020オリンピックも今月8日で閉会式となります。スポン、アスリートから得る感動を私たち多くの人々がもらいそれぞれに盛り上がっているのではないのでしょうか。特に日本選手の活躍は目覚ましく金メダル獲得も過去最高の成績です。私個人としてはゴルフの松山選手がプレーオフで銅メダルを逃したことがとても残念ではありますが、残り4日間、日本選手の皆さんには頑張ってもらいたいと思います。



さて、今日8月5日はタクシーの日、世界ビールデーの日だそうです。1912年(大正元年)のこの日、東京数寄屋橋のタクシー自動車株式会社が日本で初めてのタクシー営業を開始した日で、東京乗用旅客自動車協会が1984年に制定し翌1985年から実施、現在は全国乗用自動車連合会が全国統一キャンペーンとして実施しています。また世界ビールデーは2007年にアメリカカリフォルニア州サンタクルーズで友人たちと集まってビールを楽しみ、醸造会社などビール製造に関わる人達に感謝する日だそうです。私も今夜長期ビジョン委員会が蓬萊軒松坂屋店にて開催されるので、感謝の気持ちをもってつばめタクシーで送迎してもらい、ビールを嗜もうと思います。以上会長挨拶を終わります。

表彰

出席表彰 5年100%出席

村瀬俊高さん、鈴木伸一さん



出席表彰 10年100%出席

湯澤信雄さん、山口哲司さん



奨学金授与

米山奨学生 周 軒さん



幹事報告

田中宏 幹事

- ・次週8月12日(木)休会となります。
- ・事務局のお休みは8/7(土)～8/15(日)となります。電話はつながりませんので、お間違えの無いようお願いいたします。
- ・次々週8月19日(木)は12:00より、親睦例会がヒルトン名古屋4F「竹の間」にて行われます。
- ・開始時間が30分早くなっておりますので、お間違えの無いようお願い致します。「まん延防止重点措置」が発令された場合は、残念ながら休会となります。またご案内致します。
- ・7月29日に静岡県熱海豪雨義捐金の募金を行いました。総額65,000円となりました。ご協力ありがとうございました。
- ・10/9(土)から10(日)開催予定であったWFFが2022年春(4月目標)に延期になりました。
- ・会員の松田浩孝さんが、会社移転の為、会員名のシールをメールボックスに入れましたのでお願いします。
- ・地区大会につきまして、会長以外の方は11月7日(日)の参加になりますが、出席義務者の方は都合の付く限りご出席をお願いします。出席義務者でない方で地区大会に出席したい方は、事務局に申し出ていただけたらと思います。

8月誕生日おめでとう

村瀬俊高さん 今川知也さん 森 裕之さん

広瀬弘幸さん 渡邊将之さん

出席報告

杉江建亮 出席委員

会員69名 出席51名(出席計算人数53名)

出席率 85.0%

ニコボックス

杉江建亮 ニコボックス委員

- ・サッカー日本代表銅メダルに向かって頑張れ。堀 慎治さん
- ・日本の10代はすごい!!我々も頑張ろう。森 裕之さん
- ・オリンピックのメダルラッシュ楽しみです。日本頑張れ!! 鈴木 淑久さん
- ・事務所移転しました。断捨離できて良かったです。松田 浩孝さん
- ・女子ゴルフ2日目のチケットがあったのですが、例会出席しています。先日、山口さんのイーグルさすがです。岡部 光邦さん
- ・酷暑です。オリンピックも盛り上がっていますが、皆様お体に各自愛ください! 長谷川 隆さん 山口 哲司さん 内藤 晶文さん 杉江 建亮さん

テーマ：「企業トラブルにおける探偵の使い方」

この度は、このような貴重な機会を頂きありがとうございます。探偵業を営んでおります、後藤啓佑と申します。本日は、自己紹介と、探偵業界の現状、トラブルにおける探偵の使い方についてお話させて頂ければと思います。私は愛知県春日井市で生まれ育ち、19歳から探偵の世界に飛び込みました。今30歳です。探偵は11年目になります。何故この仕事を選んだかと言いますと、発端は中学生の時に読んだ探偵小説「シャーロックホームズ」シリーズと「フィリップマローウ」シリーズに強い憧れを抱いたからです。そして高校生の時、その憧れは変わらず将来は彼らのように「頭」と「足」の両方を使う仕事がしたいという想いから、探偵、若しくは刑事のどちらかの道に進もうと決めました。探偵と刑事、どちらを目指そうとなった時に、判断基準は「海外で活動ができるかどうか？」でした。



探偵と同じく、中学生の頃に「コロンビアロック」なる音楽に夢中になり、中南米の文化に興味を持ち、「こんなに魅力的な文化がある地域で、いつか働いてみたい」という気持ちを持っていたのです。そういった事情で、海外で刑事＝国際刑事警察機構(本部はフランス)に入る、ということよりも、探偵として修業し、調査ができるようになったら自分が行きたい場所(コロンビア)へ行こうと決心するのでした。

19歳で名古屋の探偵事務所に入り、そこで4年間修業した後は、いよいよ待ち望んだ海外です。調査員として自分の調査力にある程度の自信があった私は、コロンビアでもきつとやっていけるだろうと過信しておりました。コロンビアで探偵をやるにはまずはスペイン語を覚えなければなりませんので、プランとしては比較的発音が綺麗で生活コストが安いと言われていたグアテマラでスペイン語を習得、中南米地域での探偵業開業の為の情報収集をし、その後にコロンビア入りするというものでした。しかし、結果は、他人のトラブルを解決するどころか、自身がグアテマラにて様々なトラブルに巻き込まれてしまっていたのです。時には銃声に怯えながら、...何としてでも現地で探偵を!と思っていましたので半年程は現地に食らいついていましたが、自分が解決できることの小ささを目の当たりにし、帰国を決意しました。

帰国後は、お客様の心にいかに触れられるか、トラブル解決ではなく、トラブルの根本を解決することに重きを置いて活動するよう心掛けました。探偵は個人案件でも法人案件でも、証拠をとることだけが仕事ではなく、その証拠をどのように使うのか、使った先に幸せがあるのかどうかを理解し判断する必要があります。銃やナイフなどの武器と同じで、使い慣れていない人間が「事実の証拠」を使うと逆に不幸になってしまう危険性もあるのです。事実を知ることが全て「善」ではなく、不透明な部分を飲み込むことのほうが、結果的に幸せに近づくこともあるということも探偵業をやっていて学んだことの1つです。このように、探偵業を通してお客様から学ぶ機会を多く頂いています。帰国後、3年間は日本で上記のような経験を経て、ようやく「調査員」から「探偵」になったのかな、と思っています。このような流れで、現在は時にはタイやフィリピン、ベトナムや中国でも調査を経験しながら、探偵を極めたいと思い活動しております。少し自己紹介が長くなってしまいましたが、このような経緯で今も探偵業を続けております。

話をテーマに戻し、探偵業界の現状をお話します。探偵と聞くと、「法外な料金を要求されるのではないか?」「本当に実態があるのか?」という「すぐには信用できない」イメージがあるかと思います。残念ながら、これらの懸念は半分正解です。実際に、探偵事務所への依頼料の相場額というものは社会には浸透しておりませんので、一般的な個人トラブル案件に〇〇〇万円支払った、という話もよく耳にします。もちろん、これだけで法外かどうかは案件によりまずし、当事者がよければ問題はないと思います。しかし、その後に探偵業界に対して多くのクレームが起きていることは事実です。そして、実態がわからない業者が多いというのも事実としてあります。警察庁生活安全局生活安全企画課が提出しているレポートによりますと、平成29年の段階では日本全国で5738の探偵業届出が出されております。一見多いように見えますが、実は届出だけ出して、実調査を行ったことがない業者の方はたくさんいらっしゃいます。

ここからは私の肌感覚ですが、愛知県に600程探偵事務所があるとすると

と、稼働しているのはそこから半分300、副業でたまに調査を業者に流すのではなく、探偵業1本で稼働しているのはそこから6分の1の50、法人はそこから半分の25、ぐらいだと思います。ですので実際にはHPなどで集客をされていってしっかり見えても、実は実態がなく調査員も在籍していない、というところは多々あるのです。これらは事実ですが、僕が今回お伝えしたいのは、「キッチンとやっている探偵事務所もたくさんある」ということです。どうしても探偵という職業柄、お客様はサービスを受けた後(トラブル調査を行い解決した後)に、あの事務所よかった!と「口コミ」がしづらいのです。やはり自身のトラブルというのは解決したとしてもあまり他人に言いたくないですね。それが個人間のものだったら尚更、...ですので、よかった噂が広まりにくいところが、最初のイメージのまま社会に定着してしまっていると思っています。

今後、探偵業界はどこに向かうのか、一番にぶつかる壁は、GPSでしょう。過去と比べて、年々使いづらくなってきています。世の中にも存在が認知され、さらには法律で制限がかかる未来がもうそこにきています。そしてさらに、個人トラブルにおいては、年々社会の考え方が変わっている部分もあります。それは、相手方に対する慰謝料請求です。詳細は割愛しますが、認められる請求金額が年々下がっていると聞いています。こういった状況から、探偵業界も進化していかなければならないことは明白です。GPSだけに頼った調査を捨てなければいけませんし、請求金額に期待したアフターフォローでは存在価値がなくなります。そういった将来に絶望している探偵の方もいます。しかし、私はその部分の捉え方を変えることができます。元々GPSなどなくても情報を探ることができるのがプロの「探偵」です。そして、お客様に寄り添い、請求金額が少ないのであれば他にどこにお客様の幸せの実現ができるか、そのフォローをしていくことができる探偵が、将来本当に「探偵」と呼ばれる方々だと思います。私自身はまだ精進すべき身ですが、そこへ向けて、業界全体で進化していきたいと思っています。そう考えると、探偵業界の未来は明るいと思います。

さて、探偵業界について熱く語ってしまいましたが、では実際にどのような内容を扱っているのか?という部分をお伝えさせていただきます。私自身は、個人案件と法人案件、受注割合としては半分ぐらいで活動しております。個人案件はなんとなく想像がつくかと思いますが、今回は法人案件についてお話しします。

具体的な相談内容で多いのは、「職務懈怠、ハラスメント」「競業禁止義務違反」「競合について」「採用」「金銭や物品横領」「情報漏洩」あたりです。個人案件と違い、目的が多岐に渡りますので、当然調査方法も変わってきます。探偵のメインスキル「尾行」「張り込み」「撮影」のみならず、弊社では「科学鑑定」や「フォレンジック調査」など、目的ごとに必要なスキルを上乘せして解決に向かいます。1つ例を出すとイメージが付きやすいかと思いますので、「職務懈怠やハラスメント」いわゆるサボリ調査を例に挙げます。この調査の大半は「部下への重大なバフハラがあったり、役員や会社への不満を社内外にまき散らしたりする人物がおり、その人物を解雇したいけどできない」というような状況でご依頼されます。そこで、調査により営業日報との差異を記録していったり、カメラを使用しハラスメントの証拠を撮影したりと、事実を積み重ねていきます。それらに関して、証拠を突きつけるのではなく「どう穏便に解決するか」を模索していきます。そして最終的には、法人案件では必ず弁護士さんへ最終的なジャッジをお願いしています。このような流れであれば、お客様の期待する結果に大きく近づくことができます。このように法人案件でも探偵は使えますので、トラブルが起ってしまった後はもちろん、懸念事項があればトラブルが起きる前でもご相談頂ければなにかしらの対策はうつことができます。

駆け足になりましたが、企業における探偵の使い方が少しでもイメージ頂けたら幸いです。ありがとうございました。

例会のご案内

■今週 8月12日(木) 定款により休会

■次週 8月19日(木) 定款により休会

■次々週 8月26日(木) 定款により休会